

市では、市内の学校に通う児童・生徒に小諸のことをより知ってもらうため、副読本として「こもろヒストリー」を作製しました。ここでは、その一部を連載してお伝えしていきます。

「小諸義塾」は、小諸の青年たちの熱心な要請にこたえて、明治26年に開校した私塾です。塾長の木村熊二は、明治初年にアメリカに渡って12年間そこで勉強してきたキリスト教の牧師でした。

小諸義塾は、私立の中学校として認められ、やがて島崎藤村などの先生を迎えて、質の高い教育を行いました。

木村熊二は、教育やキリスト教伝道のほかに地域の産業の発展のためにも熱心に取り組みました。しかし、財政難、そのほかの事情によって、小諸義塾は13年間の短い歴史に幕を閉じました。

三岡の桃栽培

森山の塩川貞五郎及び塩川伊一郎親子は、木村熊二先生の助言を受けて、桃の栽培に取り組みました。桃は、傷みやすいため缶詰にすることを考えて、缶詰工場を作りました。

桃を缶詰にすることで、農家も安心してたくさん桃をつくることができました。



「ジャムの日」は、小諸発！

桃缶の製造だけでは時期が限られているので、農家にイチゴの栽培をすすめてジャムの製造にも取り組みました。

塩川伊一郎が作ったジャムは、コンクールで優秀な成績を上げ、日本各地へ販売されるようになりました。伊一郎の取組みが日本のジャムづくりの基礎になったとして、4月20日が「ジャムの日」として定められました。

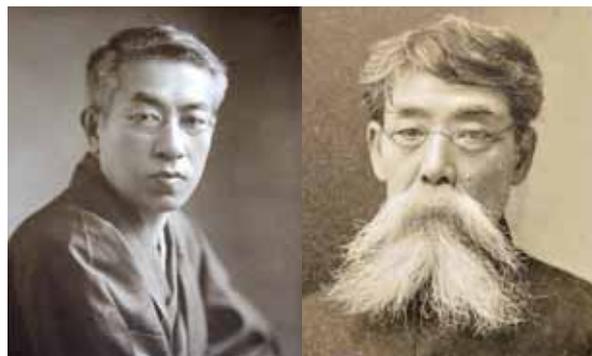


HISTORY No.6

小諸義塾



小諸義塾の卒業記念写真



島崎藤村

塾長 木村熊二

6年間小諸義塾で国語と英語を教えました。小諸時代に「小諸なる古城のほとり…」という有名な詩や「千曲川スケッチ」等の作品を書きました。

教育などのほかに、三岡に桃やイチゴの栽培を指導し、明治末から大正にかけて地域の産業として発展する糸口をつくりました。



超大作

全12回

私が住むまち

小諸の歴史

K O M O R O

H I S T O R Y

歴史の

なかに、

未来の

ひみつが

横た

わっている

こもろ未来プロジェクトシリーズ